

第110号

中学生特集



発行 学校法人 藤枝学園
藤枝明誠中学校・高等学校
渉外課広報担当
TEL (054) 635-8155
FAX (054) 635-8494
【URL】 https://www.fgmeisei.ed.jp
【Email】 meisei@fgmeisei.ed.jp

明誠中学18期修学旅行
歴史文化に触れた4日間

藤枝明誠中学18期生は、「日本の歴史・文化の理解を深める」「集団生活を通して公共の場での規律を学ぶ」「集団の中で責務や役割を考へて協調性・社会性を養う」「社会の一員としてコロナ禍でのニューノーマルな振る舞いや配慮を忘れずに修学旅行を楽しむ」この4つを目標として、10月26日から3泊4日の修学旅行に臨んだ。
学校を出発し、一路「宇治平等院鳳凰堂」へ向かった。極楽浄土を再現した、平安時代の雅な文化を感じさせる優雅な建造物に感嘆した。その後「奈良公園」に移動し、親しみやすいガイドのもと、「興福寺・東大寺」を見学した。その威容を誇る東大寺の大仏は、やはり見応えのあるものであった。また生徒たちは有名な奈良公園の鹿に「鹿せんべい」をあげ「奪われ？」る「ふれあい」を体験することができた。ブレザーの袖や裾を鹿の涎まみれにされたのも、良き思い出になったに違いない。
2日目はまず「法隆寺」を見学した。現存する世界最古の木造建築や歴史の資料集に掲載されている文化をじかに堪能することができた。
午後は明日香村に移動し、班ごとレンタサイクルにて研修の地を駆けつけた。晴天にも恵まれ石舞台古墳など有名な遺跡を見学することができた。
各班が立案した計画をもとに班のメンバーと共に、明日香村ののどかな風景を楽しみながら歴史を学んだ。
明日香村から京都へ移動し、3日目の行程が始まった。3日目は班ごとのタクシー研修で、生徒が修学旅行の中でも一番楽しみにしていた研修である。各班は自分たちで予約した体験学習を行っていた。着物を着て一日研修を行う班や寺社仏閣めぐりる班など、各班で京都堪能することができ、大



奈良公園



平等院

日本の歴史・文化への理解を深める4日間となった

修学旅行の思い出

J31HR (相賀小学校出身) 栗山由衣
私達中学3年生は、10月26日から3泊4日で奈良・京都に行きました。この研修で日本の歴史の知識を深め、仲間との協調性を高めることができました。
1日目、2日目の奈良4日目の京都の全体研修では有名な歴史的建造物を見学しました。そこでは、普段テレビや教科書でしか見たことが無かった建物を実際に見ることができて、より歴史の知識を深められました。
2日目の午後に奈良の明日香村で、サイクリングでの研修がありました。この研修では歴史の知識を深めるだけでなく、班の人達と協力して行動することができました。研

行程表: 10月26日(水) 奈良宿泊先: 吉田屋旅館... 10月27日(木) 京都宿泊先: 京都山科ホテル山楽... 10月28日(金) 京都宿泊先: 京都山科ホテル山楽(連泊)... 10月29日(土)...

中学2年オータムキャンプ
日本と世界の繋がりを知る



中学19期生は進路選択の興味・関心を高め、集団としての協調性、社会性を養うという目標のもと、1泊2日のオータムキャンプに臨んだ。
JICAと科学技術館では日本と世界との繋がりや産業発展の知識を深めた。また東京大学では内進生の齊藤先輩から大学生活や中

中学1年地域探訪
地元・静岡への理解を深める



静岡の自然や産業に触れる機会となった
中学一年生は静岡県が誇る企業の歴史や自然・文化に触れ、理解を深めることを目的に、地域探訪に出発した。
まずは竜ヶ岩洞にて百年に1cmという何万年もかけて成長してきた鍾乳洞で散策を楽しんだ。その後、浜名湖をクルーズし、地域の歴史や工業の発展を学ぶとともに、雄大な自然を味わっていた。午後はヤマハの企業ミュージアムであるイノベーションロードを見学した。
この校外学習を通して学んだことを今後の学校生活にも活かしてほしい。
(J11HR担任・松本早紀)

修学旅行記

J32HR (鳥田第五小学校出身) 塚本裕月
10月、私たちは4日間と仲間との協調性や公共の修学旅行に行ってきた。この四日間では多くの学びを得ました。
修学旅行では、団体行動や集合時間の厳守などの協調性が必要な場面が多々ありました。私の班は班別行動中に道に迷った。時間通りに集合場所に就くのを諦めそうになった時がありました。ですが、班で協力し合い時間内に集合場所に到着することができました。このように、仲間との協調性の大切さを感じさせられる時



生徒代表が誓いの言葉を述べた

高校40周年・中学20周年式典 藤枝明誠、新たな10年へ



校長 高博

昭和58年4月の明誠開校から、早40年が経とうとしています。40の歳月は、李益の言う「光陰如箭」を今更ながら実感させてくれます。10年単位で振り返れば、無我夢中、激動、飛躍、安定の時代

と位置付けられます。開校からの10年は、生活・学習指導を両輪として、進学校づくりに奔走してきましたが、先生方にはそのための経験がほとんどありません。新卒の若い先生方が多いこともあつ

て情熱と使命感に突き動かされてきました。この10年は、厳しい少子化にもかわらず学校評価も高まり、同時に在籍数も安定しています。日々、明誠は、多くの生徒さんたちの活気に漲っています。50周年に向けて、解決すべき課題は学校の色が褪せてきたことです。換言すれば、不易が流行し、流行すべきが硬直化しているといったことです。世の中、社会の激変する状況下で、明誠には、時代や地域を踏まえた新たな特色化も必要です。



23HR (掛川東中出身) 橋本拓真

40周年式典を終えて

令和4年11月9日に私は藤枝明誠高等学校創立40周年、中学校20周年の記念式典に参加しました。私はそのなかで藤枝明誠の歴史や卒業生の飯塚先輩の話や、普段から自分を改めようとして決まっていた。私は部活に魅力を感じて明誠に入學し、文武両道を目標とするも、なかなか実現できていません。この先、新しい風も入れつつ、この藤枝明誠をより良くして行ける生徒に成長したいと思っています。



厳しい練習を乗り越え、全国大会出場を掴んだ

陸上部 13年ぶり全国駅伝 都大路を駆け抜ける!

いざ都大路へ!

13年ぶり9回目の県大会優勝、10回目の都大路出場となりました。毎年何日で県大会と数えながら選手たちは練習に取り組みできました。主将の水野健太が両手を広げゴールテープを切りました。11月6日(日)の県大会

優勝のために1年間あと何日で県大会と数えながら選手たちは練習に取り組みできました。主将の水野健太が両手を広げゴールテープを切りました。11月6日(日)の県大会

21人で掴んだ都大路



31HR (吉田中出身) 水野健太

11月6日の県大会駅伝にて私たちは13年ぶり9度目の全国大会の切符を掴みました。昨年は4位と悔しい結果に終わり、そこから1年、チーム一丸となり厳しく苦しい練習を乗り越えてきました。

とちぎ国体 馬術、射撃で入賞!



19HR (藤原中出身) 川村颯太

「常に冷静に」を心掛けた

10月6日から10月10日まで地方競馬教養センターで開催されていた、いちご一会とちぎ国体の馬術競技に出場しました。昨年の三重国体は中止となってしまうため、今年が初出場でしたが、少年リレーで1位、少年スリードアンドハンディネ

10月6日から9日にかけて栃木県で開催された第77回国民体育大会に10m少年女子立射60発競技に出場しました。茨城国体から2度目の出場でした。その間の国体は、新型コロナ感染症のため、出場が決まりなが

東海大会出場 二世として



11HR (清水飯田中出身) 杉本 紘一郎

東海大会でいい結果を出せたのは「二世」、この言葉に助けられたと思います。私の両親も陸上競技をしていました。そのため過度な期待をされ、思い切った投げ、全国決勝で戦います。

東海大会に出で得たもの



15HR (城山中出身) 長谷川 大夢

私は中学時代から陸上部に所属していましたが、あまりいい結果を残せませんでした。しかし、高校で陸上を始めて一年目に、東海大会に出場でき

10月6日から9日にかけて栃木県で開催された第77回国民体育大会に10m少年女子立射60発競技に出場しました。茨城国体から2度目の出場でした。その間の国体は、新型コロナ感染症のため、出場が決まりなが